

研究分野	資源評価	部名	漁場環境部
研究課題名	アカイカ資源調査		
予算区分	受託 水産総合研究センター		
試験研究実施年度・研究期間	H3～		
担当	黄金崎 栄一		
協力・分担関係	(独)遠洋水産研究所		

〈目的〉

春から夏の初漁期においてアカイカ漁業の対象となっているのは東経 170 度以東の秋季発生中部系群であり、本系群の経年的な資源変動については、1977 年から毎年 7 月に中部太平洋（東経 175 度 30 分）において流網調査によりモニタリングされてきた。

1999 年まで北海道大学水産学部が実施してきたが、2000 年より水産庁遠洋水産研究所（現独立行政法人水産総合研究センター遠洋水産研究所）外洋イカ研究室が引き継ぎ、本系群の資源状況及び資源変動機構解明のための調査を進めている。また、本県はアカイカの主水揚げ港を持ち、同時期にこの海域で操業する船も多く、本系群の動向を解明することは重要なことである。

そこで遠洋水産研究所からの委託を受け、試験船・開運丸により下記の項目を目的として調査を行っている。

- (1) アカイカ秋季発生中部系群の盛漁期（7 月）における資源レベルを推定する。
 - (2) アカイカ冬春発生西部系群の資源レベルの推定を試みる。
 - (3) 海洋構造とアカイカ分布の関係を明らかにする。
 - (4) アカイカ秋季発生中部系群のアカイカ触腕の再生個体の出現頻度を明らかにする。
- また脱落の状況について情報を収集する。
- (5) アカイカ、サメ、海鳥、イルカの高次捕食者および小型浮魚類の標本を採集する。

〈試験研究方法〉

独立行政法人水産総合研究センターからの委託により、当該センター職員が試験船・開運丸に乗船し、傭船調査により下記の調査を行う。

- (1) 調査海域：北太平洋公海域のアカイカ漁場域(37° 00' -46° 00' N, 175° 30' E)および我が国近海のアカイカ漁場域(35° 00' -44° 00' N, 144° 00' -155° 00' E)

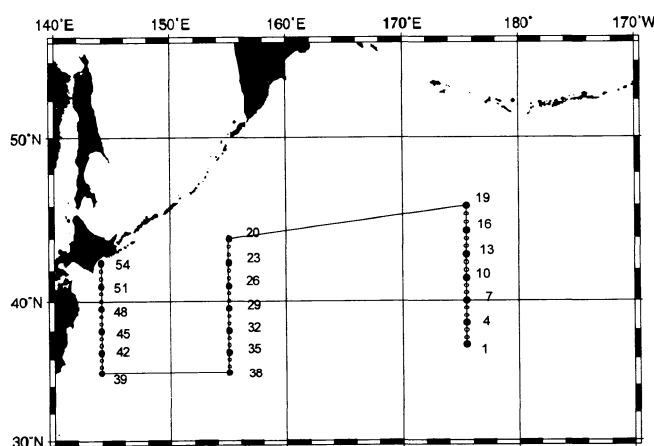


図 1 調査点の配置

(2) 調査期間：平成 19 年 7 月 5 日から 8 月 7 日まで

(3) 調査項目

イ) 海洋観測：CTD 観測（水深 1,000m、水温、塩分）、ADCP（流向、流速）透明度、水色、表面水温、クロロフィル分析等。

ロ) 流網調査：13 種の目合の流網 50 反（調査網 34 反、商業網 16 反）を用い、日没に投網、日出に揚網を行う漁獲物調査。

ハ) ノルパックネット採集：観測用ウインチを用い、ノルパックネット（口径 45cm、長さ 180cm、目合 0.35mm）で水深 150m～0m の鉛直曳き採集を行う。

二) その他：海産哺乳類・海鳥及びサケ・マスに関する調査も実施する。

〈主要成果の具体的なデータ〉

(3) の調査項目について、調査員から無線局を通じ調査状況の連絡を受け、毎日遠洋水産研究所他関係機関に報告を行うと共に、全ての調査終了後、観測データ、サンプル等を同所に送付した。

〈今後の問題点〉

本県にとって同海域のアカイカ資源は重要であり、主に操業する中型いか釣漁船の経営が厳しさを増す中、調査に対する要望は高い。年々予算が厳しくなっているが、公海アカイカの有効利用のためにも事業の継続が望まれる。

〈次年度の具体的計画〉

(1) 調査期間：平成 20 年 7 月 5 日から 8 月 7 日まで

(2) 調査目的

イ) 初漁期におけるアカイカ秋季発生群の加入経路と加入モニタリング。

ロ) イカ釣り漁場における海洋環境

(3) 調査項目

イ) 海洋観測：CTD 観測（水深 1,000m、水温、塩分）、ADCP（流向、流速）透明度、水色、表面水温、クロロフィル分析等

ロ) 流網調査：13 種の目合の流網 50 反（調査網 34 反、商業網 16 反）を用い、日没に投網、日出に揚網を行う漁獲物調査。

ハ) ノルパックネット採集：観測用ウインチを用い、ノルパックネット（口径 45cm 、長さ 180cm、目合 0.35mm）で水深 150m～0m の鉛直曳き採集を行う。

二) その他：海産哺乳類・海鳥及びサケ・マスに関する調査も実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表誌：平成 19 年度北太平洋アカイカ資源調査報告書（独立行政法人水産総合研究センター・遠洋水産研究所）